

ソフトウェア情報学部

氏名 友田 敏章 (TOMODA Toshiaki)
所属 ソフトウェア情報学部ソフトウェア情報学科
職名 教授
生年月日 1947年7月4日

[履歴]

[学歴]

1971年6月 東京大学理学部物理学科卒業
1973年3月 東京大学大学院理学系研究科修士課程修了
1976年3月 東京大学大学院理学系研究科博士課程修了

[学位]

理学博士 1976年3月 東京大学

[職歴]

1976年4月 日本学術振興会奨励研究員
1979年9月 Max-Planck-Institut für Kernphysik (Heidelberg, Germany) 客員研究員
1982年9月 Technische Universität München (Germany) 研究員
1983年5月 Universität Tübingen (Germany) 研究員
1987年9月 Paul-Scherrer-Institut (Villigen, Switzerland) 研究員
1992年4月 青森大学工学部情報システム工学科教授
1994年4月～1998年3月、2002年4月～2009年3月 情報システム工学科長
2004年4月 ソフトウェア情報学部ソフトウェア情報学科教授
2004年4月～2008年3月 ソフトウェア情報学部長
2008年4月～2011年3月 ソフトウェア情報学科長
2011年4月 ソフトウェア情報学部長

[所属学会]

情報処理学会、情報処理学会音楽情報科学研究会、日本工学教育協会、コンピュータ利用教育学会、日本物理学会、IEEE Computer Society、Association for Computing Machinery、American Physical Society

[教育活動]

[担当科目]

物理学Ⅰ、基礎物理学、コンピュータ基礎、コンピュータネットワーク、コンピュータミュージック、数値解析、情報科教育法Ⅱ、数学科教育法Ⅳ、基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ、基礎演習A・B、創作ゼミナールⅠ・Ⅱ、卒業研究

[卒業研究指導]

2010年度卒業研究： 4名
2011年度卒業研究： 2名
2012年度卒業研究： 2名
2013年度卒業研究： 2名
2014年度卒業研究： 2名

[ゼミ指導]

2010年度基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ： 10名

2010 年度創作ゼミナール I・II : 2 名
2011 年度基礎ゼミナール I・II : 5 名
2011 年度創作ゼミナール I・II : 2 名
2012 年度基礎ゼミナール I・II : 5 名
2012 年度創作ゼミナール I・II : 2 名
2013 年度基礎演習 A・B : 6 名
2013 年度創作ゼミナール I・II : 1 名
2014 年度創作ゼミナール I・II : 2 名

[研究活動]

[研究テーマ]

- (1) リズム同期型伴奏システムの開発
- (2) 二重ベータ崩壊の理論的研究

[その他の活動]

[公開講座、講演、セミナー]

青森市立高等看護学院学生対象パソコン演習授業の企画および講師担当 (2010 年度～2011 年度)

[学内各種委員]

入試管理委員 (2010 年度～2014 年度)
入試管理委員会委員長 (2012～2014 年度)
教務部長 (2010 年度)
FD 委員会委員 (2013～2014 年度)
地域貢献委員会委員 (2013～2014 年度)
留学生総合支援局委員 (2011 年度～2014 年度)

[学外各種委員]

東北原子力懇談会参与 (2011 年度)
東北エネルギー懇談会参与 (2012～2014 年度)
大学コンソーシアム青森 教育連携部会委員 (2010 年度)

氏名 矢萩 正人 (YAHAGI Masahito)
所属 ソフトウェア情報学部ソフトウェア情報学科
職種

生年月日

[履 歴]

[学 歴]

1973 年 3 月 法政大学工学部電気工学科卒業
1975 年 3 月 法政大学大学院工学研究科電気工学専攻修士課程修了
1983 年 3 月 法政大学大学院工学研究科電気工学専攻博士課程修了

[学 位]

工学博士 1983 年 3 月 法政大学

[職 歴]

1983 年 4 月 法政大学工学部 非常勤講師
東京都立工業高等専門学校 非常勤講師
1987 年 4 月 山形県立長井工業高等学校 教諭
1992 年 4 月 青森大学工学部電子情報工学科 助教授
1999 年 4 月 青森大学工学部電子情報工学科 教授
2001 年 4 月 青森大学工学部電子システム工学科 (学科名変更) 教授
2004 年 4 月 青森大学ソフトウェア情報学部ソフトウェア情報学科 教授

[受 賞]

[所属学会]

日本物理学会、応用物理学会、日本原子力学会 (永年会員)、日本工学教育協会、東北工学教育協会

[教育活動]

[担当科目]

基礎数学Ⅰ、基礎数学Ⅱ、代数学Ⅰ、センサデバイス、ロボテックス、
情報と職業、数学科教育法Ⅰ、情報科教育法Ⅰ、創作ゼミナールⅠ、
創作ゼミナールⅡ、卒業研究

[卒業研究指導]

2011 年度卒業研究 : 4 名
2012 年度卒業研究 : 3 名
2013 年度卒業研究 : 4 名
2014 年度卒業研究 : 3 名

[ゼミ指導]

2011 年度創作ゼミナールⅠ・Ⅱ : 3 名
2012 年度基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ : 4 名
2013 年度創作ゼミナールⅠ・Ⅱ : 3 名
2014 年度創作ゼミナールⅠ・Ⅱ : 3 名

[教育指導に関する特記事項]

[研究活動]

(1) 教材としてのロボットの開発

(2) エネルギー変換用素材 Li 化合物の物性研究

(3) Hydrogen diffusion in NaTl-type intermetallic compound LiAl

[原著論文・総説]

1. K. Nakamura, K. Motoki, Y. Michihiro, T. Kanashiro, M. Yahagi, H. Hamanaka and K. Kuriyama : Li+

ion Diffusion and Vacancy Ordering in γ -LiGa.

Faraday Discuss.,

134, (2007) 343-352.

2. Sun-Chan Jeong, Ichiro Katayama, Hirokane Kawakami, Yutaka Watanabe, Hironobu

Ishiyama, Nobuaki Imai, Yoshikazu Hirayama, Hiroari Miyatake, Masao Satake, Hiroyuki

Sugai, Satoru Okayasu, Shin-Ichi Ichikawa, Katsuhisa Nishio, Shinichi Mituoka,

Takamitsu Nakanoya, Takashi Hashimoto, Masahito Yahagi, and Takanori Hashimoto :

On-Line Diffusion Tracing in Li Ionic Conductors by the Short-Lived Radioactive Beam of ^8Li

Li, Jpn. J. Appl. Phys. 47 (2008) 6413.

3. Daisuke Nishioka, Koichi Nakamura, Yoshitaka Michihiro, Takashi Ohno, Tatsuo Kanashiro, Kazuo Kuriyama, Hiromi Hamanaka, and Masahito Yahagi : NMR Study on

Defect Structure in γ -LiGa,

J. Phys. Soc. Jpn. 77 (2008) 034604.

4. Shigeki Endou, Takashi Ohno, Yutaka Kishimoto, Daisuke Nishioka, Yoshitaka Michihiro,

Yu Kawasaki, Yukiichi Ideta, Kazuo Kuriyama, Hiromi Hamanaka, and Masahito Yahagi : 7

Li Spin-Lattice Relaxation at Low Temperatures in a Superionic Conductor

γ -LiGa,

J. Phys. Soc. Jpn. 78 (2009) 104601.

5. 鄭 淳讚、須貝宏行、矢萩正人、 γ -最近の研究から γ -Li イオンの振舞いを捉まえる : 再加速短寿命核ビーム 8

Li による Li 拡散実験、日本物理学会誌 Vol.64, No.9, (2009)

687-691.

[研究発表]

1. K. Nakamura, K. Motoki, Y. Michihiro, T. Kanashiro, M. Yahagi, H. Hamanaka and K.

Kuriyama : Li+

Ionic Diffusion and Vacancy Ordering in γ -LiGa、Faraday

Discussion

134, Atomic Transport and Defect Phenomena in Solids, University of Surrey,

Guildford,

UK, 10-12 July 2006.

2. H. Sugai, M. Sataka, S. Okayasu, S. Ichikawa, K. Nishio, S. Mitsuoka, T. Nakanoya, A. Osa,

T. Sato, T. Hashimoto, S.C. Jeong, I. Katayama, H. Kawakami, H. Ishiyama, Y. Watanabe,

H. Ishiyama, N. Imai, Y. Hirayama, H. Miyatake, Takanori Hashimoto, M. Yahagi :
Diffusion of ^8Li

Li Short-Lived Radiotracer in Li Ionic Conductors of NaTl-type Intermetallic Compounds, 3rd International Conference on Diffusion in Solids and Liquids (DSL2007),

Algarve Portugal, 4-6 July, (2007).

3. 鄭 淳讚、石山博恒、片山一郎、川上宏金、渡邊裕、今井伸明、平山賀一、宮武宇也、左高正雄、岡安 悟、須貝宏之、市川進一、西尾勝久、仲野谷孝充、光岡真一、矢萩正人、橋本恭能、「短寿命核 ^8Li

^8Li を用いたリチウムイオン伝導体における拡散

実験-マイクロからナノ拡散へ」、第 12 回超イオン導電体物性研究会、第 49 回固体イオニクス研究会合同、2008 年 6 月 26-27 日、山形市市民活動支援センター

4. Sun-Chan Jeong, Ichiro Katayama, Hirokane Kawakami, Yutaka Watanabe, Hironobu

Ishiyama, Nobuaki Imai, Yoshikazu Hirayama, Hiroari Miyatake, Masao Sakata, Hiroyuki Sugai, Satoru Okayasu, Shin-Ichi Ichikawa, Katsuhisa Nishio, Shinichi Mitsuoka, Takamitsu Nakanoya, Takashi Hashimoto, Takanori Hashimoto, and Masahito

Yahagi : Diffusion Experiment in Lithium Ionic Conductors with the Radiotracer of ^8Li :

from Micro- to Nano-diffusion, The 6th Japan-Italy symposium on Heavy Ion Physics 11-15th Nov. 2008. Tokai.

[その他の活動]

[公開講座、講演、セミナー]

矢萩正人、「LabVIEW を用いた計測制御システムの構築」ソフトウェア情報学科 第 7 回学科セミナー、2009 年 3 月 11 日

矢萩正人、「LabVIEW を用いた計測制御システムの構築」ソフトウェア情報学科 第 7 回学科セミナー、2009 年 3 月 11 日

[研究報告]

1. S.C. Jeong, I. Katayama, H. Kawakami, H. Ishiyama, Y. Watanabe, N. Imai, Y. Hirayama, H.

Miyatake, M. Sataka, S. Okayasu, H. Sugai, S. Ichikawa, K. Nishio, T. Nakanoya, S. Mitsuoka, Takahasi Hashimoto, Takanori Hashimoto, M. Yahagi, K. Takada, M. Watanabe,

T. Ishikawa and A. Iwase : Measurement of Self-Diffusion Coefficients in Li Ionic Conductors by Using Short-Lived Radiotracer of ^8Li

Li JAEA-Tokai TANDEM Annual Report 2004, 61-62, January 2006.

2. S.C. Jeong, I. Katayama, H. Kawakami, H. Ishiyama, Y. Watanabe, N. Imai, Y. Hirayama,
H. Miyatake, M. Sataka, S. Okayasu, H. Sugai, S. Ichikawa, K. Nishio, T. Nakanoya, S. Mitsuoka, Takahasi Hashimoto, Takanori Hashimoto, M. Yahagi, K. Takada, M. Watanabe,
T. Ishikawa and A. Iwase : Measurement of the Diffusion Coefficients in δ -LiGa
by
Using Short-Lived Radiotracer of ^8Li
Li JAEA-Tokai TANDEM Annual Report 2005, 79-80,
September 2006.
3. 片山一郎、鄭淳讚、川上宏金、渡辺豊、石山博恒、今井伸明、平山賀一、宮武宇也、
佐高正雄、岡安悟、須貝宏行、仲野谷孝充、市川進一、西尾勝久、光岡真一、橋
本尚志、矢萩正人、橋本恭能 : セッション方式による短寿命核の固体拡散実
験 KURRI-KR-136 「原子核プローブ生成とそれを用いた物性研究」専門研究会報
告(III) (2007).
4. S.C. Jeong, I. Katayama, H. Kawakami, H. Ishiyama, Y. Watanabe, N. Imai, Y. Hirayama,
H. Miyatake, M. Sataka, S. Okayasu, H. Sugai, S. Ichikawa, K. Nishio, T. Nakanoya, S. Mitsuoka, Takahasi Hashimoto, Takanori Hashimoto, M. Yahagi, K. Takada, M. Watanabe,
T. Ishikawa and A. Iwase : Measurement of the Diffusion Coefficients in δ -LiGa
by
Using Short-Lived Radiotracer of ^8Li
Li JAEA-Tokai TANDEM Annual Report 2006, 85-86,
January 2008.
5. H. Sugai, M. Sataka, S. Okayasu, S. Ichikawa, K. Nishio, S. Mitsuoka, T. Nakanoya,
A.
Osa, T.K. Sato, T. Hashimoto, S.C. Jeong, I. Katayama, H. Kawakami, H. Ishiyama, Y. Watanabe, H. Ishiyama, N. Imai, Y. Hirayama, H. Miyatake, Takanori Hashimoto and
M.
Yahagi : Diffusion of ^8Li
Li short-lived radiotracer in Li ionic conductors of NaTl-type
intermetallic compounds, JAEA-Tokai TANDEM Annual Report 2007, 91-92,
November
2008.
6. H. Sugai, M. Sataka, S. Okayasu, S. Ichikawa, K. Nishio, S. Mitsuoka, T. Nakanoya,
S.C.
Jeong, I. Katayama, H. Kawakami, H. Ishiyama, Y. Watanabe, H. Ishiyama, N. Imai,
Y.
Hirayama, H. Miyatake, T. Hashimoto and M. Yahagi : Diffusion of ^8Li
Li short-lived
radiotracer in NaTl-type intermetallic compound LiAl, JAEA-Tokai TANDEM Annual
Report 2008, 93-94, November 2009.
- [公募研究課題の採択]
2009 年度下期 J-PARC(Japan Proton Accelerator Research Complex)物質・生命科学実

験施

設の実験課題（成果公開型）に以下の課題名で採択された。

課題名：Hydrogen diffusion in NaTl-type intermetallic compound LiAl

須貝宏行（日本原子力研究開発機構）、矢萩正人、橋本恭能（青森大学）

[研究費の取得状況]

科学研究費補助金（基盤研究(B)(2)）（課題番号：16360317）

課題名：短寿命核 8

Li を用いた Li イオン導電体の拡散研究

研究責任者：鄭 淳讚（高エネルギー加速器研究機構・素粒子原子核研究所）

研究分担者：片山一郎（高エネルギー加速器研究機構・素粒子原子核研究所）

東條栄喜（高エネルギー加速器研究機構・素粒子原子核研究所）

石山博恒（高エネルギー加速器研究機構・素粒子原子核研究所）

渡辺 裕（高エネルギー加速器研究機構・素粒子原子核研究所）

市川進一（日本原子力研究開発機構・先端基礎研究センター）

矢萩正人（青森大学工学部電子システム工学科）

高田和典（物質材料研究機構・物質研究所）

2004～2006 年度 15,500,000 円

[その他の活動]

[学内各種委員]

入試管理委員（2006 年 4 月～2007 年 3 月、2009 年 4 月～2016 年 3 月）

入試選抜委員（2006 年 4 月～2016 年 3 月）

教職課程委員（2006 年 4 月～2007 年 3 月、2008 年 4 月～2010 年 3 月）

大学協議会委員（2014 年 4 月～2016 年 3 月）

学生募集委員（2014 年 4 月～2016 年 3 月）

[学外各種委員]

青森県立青森工業高等学校 学校評議員（2006 年 4 月～2008 年 3 月）

原子力平和利用連絡協議会 委員（2006 年 4 月～2016 年 3 月）

氏名 塚本知夫 (TSUKAMOTO Tomoo)

職名 教授

所属 ソフトウェア情報学部 ソフトウェア情報学科

生年月日 1948 年 7 月 4 日

[履歴]

[学歴]

1973 年 3 月 明治学院大学文学部英文科 卒業

1975 年 5 月 インディアナ大学教育学部修士課程 修了
(TESOL・応用言語学)

[学位]

1975 年 5 月 教育学修士 (MS in Edu) 米国インディアナ大学

[職歴]

1969 年 5 月－1970 年 8 月 米軍スターズ・アンド・ストライプス社

1970 年 8 月－1973 年 8 月 米陸軍科学技術センター翻訳課 (技術翻訳)

1975 年 9 月－1982 年 3 月 グリーン英会話専門学校 講師

1979 年 4 月－1993 年 3 月 獨協大学外国語学部英語科 非常勤講師

1981 年 4 月－1989 年 3 月 フェリス女学院短期大学 非常勤講師

1982 年 4 月－1992 年 3 月 明治学院大学文学部英文科 兼任講師

1988 年 4 月－1992 年 3 月 法政大学第二教養部 兼任講師

1992 年 4 月－ 青森大学ソフトウェア情報学部 教授

[所属学会]

大学英語学会 (JACET) 全国語学協会 (JALT)

現在はなし

[教育活動]

[担当科目]

英語 I AB、英語 II AB、英語 III (薬)、英語 IV、薬学英语 I & II

[教育指導に関する特記事項]

1. テキスト作りの工夫：文学作品から、映画化されて DVD が入手できるものを選び、テキストに作る。英文の構成、語彙、文法等に、難解な点があれば、英文を書き換える。テキストにはイラストなどを添え、見やすいテキスト作りに励む。さらに、語彙や文法の問題をつける。

《チャールズ・ディケンズの小説群から》

(a) A Christmas Carol クリスマス・キャロル

《シャーロック・ホームズの冒険から》

(b) The Solitary Cyclist 美しき自転車乗り

(c) The Red-Headed League 赤髪同盟

(d) The Illustrated Client 高名の依頼人

(e) The Greek Interpreter ギリシャ語通訳

(f) A Scandal in Bohemia ボヘミアの醜聞

(g) The Dancing Man 踊る人形

(h) The Crooked Man まがった男

(i) The Man with the Twisted Lip もう一つの顔

(j) The Dying Detective 瀕死の探偵

2. TOEIC・IP 英語検定試験準備：英語検定試験 TOEIC の準会場試験(TOEIC・IP)の責任者として試験を準備・実施。また受験者の為の勉強会も開催している。
3. 研究室での始動を活発化させる為に、私の研究室を訪問しての質問や相談に対して、学生の最終評価にポイントを提供する。

[研究活動]

[研究テーマ]

1. 英語教育法
2. 日英比較

[著書、論文、総説]

1. 塚本知夫ほか：「The TOEIC TEST TRAINER Listening Supplement Teacher's Manual」制作：アスク 販売：トムソンコーポレーション (2007年1月31日)
2. 塚本知夫：「Quick Training for the TOEIC TEST」、「Quick Training for the TOEIC TEST」Teacher's Manual 制作：アスク 発行：センゲージラーニング、アスク (2008年1月20日)
3. M. Yamaguchi, H. Matsuura, M.H.Maesaka, G.W.Pifer, T. Tsukamoto 他：The TOEIC Test Trainer Teacher's Manual 出版社 JRM (韓国)、2008年9月19日
4. Tomoo Tsukamoto & Geoffrey Tozer : Eiken Lodestart 株式会社アスク センゲージラーニング 2009年1月20日

[その他の活動]

[学内各種委員]

語学担当者グループ代表
国際交流委員会 委員長

氏名 角田 均 (TSUNODA Hitoshi)

所属 ソフトウェア情報学部ソフトウェア情報学科

職名 教授

生年月日 1965 年 2 月 4 日

[履歴]

[学歴]

1989 年 3 月 大阪市立大学理学部卒業

1991 年 3 月 大阪市立大学大学院前期博士課程終了

1994 年 3 月 大阪市立大学大学院後期博士課程単位取得退学

1994 年 4 月 大阪大学核物理研究センター研究員

[学位]

博士 (理学)

[職歴]

1995 年 4 月 大阪大学核物理研究センター非常勤講師

1996 年 4 月 青森大学工学部情報システム工学科助手

2003 年 4 月 青森大学工学部情報システム工学科講師

2004 年 4 月 青森大学ソフトウェア情報学部ソフトウェア情報学科講師

2006 年 4 月 青森大学ソフトウェア情報学部ソフトウェア情報学科助教授

2007 年 4 月 青森大学ソフトウェア情報学部ソフトウェア情報学科准教授

2013 年 4 月 青森大学ソフトウェア情報学部ソフトウェア情報学科教授

[所属学会]

日本物理学会、情報処理学会、リモートセンシング学会、写真測量学会、
芸術科学会、水環境学会、環境科学会

[教育活動]

[担当科目]

プログラミング演習 I、プログラミング演習 II、地域貢献演習

ソフトウェア情報学基礎ゼミナール A、ソフトウェア情報学基礎ゼミナール B

創作ゼミナール I、創作ゼミナール II

[卒業研究指導]

2010 年卒業研究： 3 名

2011 年卒業研究： 1 名

2012 年卒業研究： 2 名

2013 年卒業研究： 2 名

2014 年卒業研究： 2 名

[ゼミ指導]

2010 年創作ゼミナール I,II： 1 名

2011 年創作ゼミナール I,II： 2 名

2012 年創作ゼミナール I,II： 2 名

2013 年創作ゼミナール I,II： 2 名

2014 年創作ゼミナール I,II： 2 名

[教育指導に関する特記事項]

1. 学部のプログラミング教育の再構成と学生のプログラミング能力向上を目指して、1

～2 年生の中心科目として「プログラミングワークショップ I,II,III,IV」を提案、2007 年度から実施。入学時より 2 年間、週 2 回ずつ、少人数のゼミ形式やグループワークを積極的に取り入れて、プログラミング教育の質向上を目指す。

2. 大学入学時における導入教育として、入学直後の最初の 1 週間の専門科目の 1 コマ目すべてを使った初年次教育の取り組みを提案、2008 年度から実施。最初のタイミングでの学習意欲の向上や、グループワークによるコミュニケーション能力の向上を目指すとともに、学生同士、または教員との交流を深めることで孤立化やドロップアウトを防ぐことを目的とする。

3. デジタルアーカイブおよびデジタル青森の研究を通じて学外と積極的に交流し、その研究プロジェクトの中に学生を参加させることで、学生と社会との接点を増やすことを心がける。また学外での ICT イベントにも積極的に参加し、学生に役割を持たせることで学生と企業の技術者との交流をはかり、また職業意識の向上や責任感の自覚を促す。

4. デジタル青森の研究を通じて、学内の学生だけでなく県内の高校生や中学生、さらに一般市民に対しても情報技術の魅力を伝える取り組みを実施、またそれを学部での学生教育にフィードバックさせることに取り組む。ワープロ+表計算+プレゼンツールの道具教育ではない、本来の情報教育の重要性について、学内外に発信する取り組みを行う。

5. 小久保、和島とともに創作ゼミナール（3 年生）と卒業研究（4 年生）を 3 研究室合同で実施、学生間の交流を活性化させるとともに、プロジェクトベースの研究によって成果の高度化をはかる。また複数担当者による学生ケアの充実に取り組む。

【研究活動】

【研究テーマ】

- (1) CG・画像処理に関する研究
- (2) デジタルコンテンツに関する研究
- (3) 高画質ライブカメラに関する研究

【著書、論文、総説】

1. "3 次元地理情報システム「デジタル青森」の開発と応用", 上谷彊輔、新谷敬、石田努、小久保温、坂井雄介、角田均、和島茂, 青森大学研究紀要第 32 巻第 3 号(2010 年 2 月)
2. "ウェブ検索における重要度計算", 小久保温、李孝烈、角田均, 青森大学研究紀要第 32 巻第 3 号(2010 年 2 月)
3. "大規模地形の高速表示と 3 次元 GIS の開発", Menendez Francisco Javier, 新谷敬, 石田努, 小久保温, 坂井雄介, 角田均, 和島茂, 上谷彊輔, 第 10 回 NICOGRAPH 春季大会予稿集, DVD 媒体のためページ番号なし(2011)
4. "「デジタル青森」を活用した高校生セミナー —情報技術の魅力を喚起する試み—", 石田努, 小久保温, 坂井雄介, 角田均, メネンデス・フランシスコ, 和島茂, 上谷彊輔, CIEC 研究会論文誌, vol.2, pp.105-111(2011)
5. "斜め写真の画像データ処理と活用に関する研究", 角田均, 和島茂, 青森大学研究紀要第 37 巻第 3 号(2015 年 2 月)

【学会発表】

1. "3 次元地図の高速表示システム「デジタル青森」の開発と応用", 新谷敬、石田努、上谷彊輔、小久保温、坂井雄介、角田均、和島茂, 情報処理学会第 72 回大会 (2010 年 3 月、東京大学)

2. "大規模地形の高速表示と 3 次元 GIS の開発", Menendez Francisco Javier,新谷敬,石田努,小久保温,坂井雄介,角田均,和島茂,上谷彊輔, 第 10 回 NICOGRAPH 春季大会 (神奈川工科大) (2011/6/11)
3. "斜め写真からの 3 次元地形テクスチャ生成の研究", 角田均,和島茂, リモートセンシング学会第 51 回学術講演会(弘前大)(2011/11/10-11)
4. "3D GIS における建物モデルの表示高速化", 菅野駿哉, Menendez Francisco Javier, 角田均, 芸術科学会東北支部大会(岩手大)(2012/1/6)
5. "3D GIS による BOD の長期評価", Menendez Francisco Javier,小久保温,角田均,三上一, 第 46 回水環境学会年会 ノンポイント汚染研究委員会 (東洋大)(2012/3/14-16)
6. "3D GIS システム「デジタル青森」による岩木川水系の水質の可視化と評価について", 三上一,小久保温,角田均, 第 46 回水環境学会年会(東洋大)(2012/3/14-16)
7. "視覚障害者が楽しむことができる「触れる絵画」の制作", 小久保温,角田均,和島茂, 芸術科学会芸術科学フォーラム 2012(東京工芸大)(2012/3/16)
8. "航空写真の簡易的なオルソ化と 3 次元地形テクスチャの生成", 角田均,和島茂, 写真測量学会平成 24 年度年次学術講演会(東大)(2012/5/21-22)
9. "3 次元 GIS による水質可視化の研究", 角田均,三上一, 環境科学会 2012 年会(横浜国大)(2012/9/13-14)
10. "被写体の形状・模様を用いた航空写真のオルソ化", 和島茂,角田均, 写真測量学会秋季学術講演会(秋田アトリオン)(2012/11/1-2)
11. "情報技術の活用による自然学習の高度化と継続的な環境教育のしくみづくり", 三上一,角田均, 第 47 回水環境学会年会(大工大)(2012/3/11-13)
12. "斜め写真からの大規模構造抽出", 和島茂,角田均, 写真測量学会年会(東大)(2013/05/20-21)
13. "「街てく」～建物モデリングによる街並み再現", 嶋田凌,三上絢佳,角田均, 芸術科学会東北支部研究会(青森市民ホール)(2013/07/14)
14. "触れる絵画の研究開発: 小林麗「ペリグーの街角」の立体化", 三浦元太郎,和島茂, 小久保温, 角田均, 芸術科学会東北支部研究会(青森市民ホール)(2013/07/14)
15. "斜め写真の活用", 和島茂,角田均, 芸術科学会東北支部研究会(秋田県民会館ジョイナス)(2013/09/28)
16. "環境教育のための 3 次元地理情報システムの機能開発", 對馬勇太,中村開,角田均, 三上一, 千葉信親, 坂本光, 水環境学会東北支部研究発表会(東北大)(2014/01/11)
17. "3D GIS による水質の可視化と分析(I)・岩木川水系の流域可視化-", 三上一,角田均, 水環境学会年会(東北大)(2014/03/17-19)
18. "3D GIS による水質の可視化と分析(II)・岩木川水系の河川水質に及ぼした公共下水道の影響-", 三上一,角田均, 水環境学会年会(東北大)(2014/03/17-19)
19. "斜め写真の大気効果の自動除去", 和島茂,角田均, 日本写真測量学会平成 26 年度年次学術講演会(東京大学生産技術研究所)(2014/05/22)
20. "小学生向け環境学習用クラウドアプリの開発", 大沢凌平,小久保温,角田均 日本水環境学会第 2 回東北支部研究発表会(東北工業大)(2015/01/10)

21. "環境学習用 Web アプリの開発と小学生による尾駁沼環境調査のマッピング", 大沢凌平,小久保温,角田均,三上一,他, 第 49 回水環境学会年会(金沢大) (2015/03/17)

22. "小学生による水環境健全指標を用いた尾駁沼の環境調査", 大沢凌平,小久保温,角田均,三上一,他, 第 49 回水環境学会年会(金沢大) (2015/03/17)

[研究費の取得状況]

1. ""青森"を実感できる情報発信 3D GIS システム「デジタル青森」の研究開発と若者の IT 離れ対策の実施", 総務省戦略的情報通信研究開発推進制度(SCOPE)平成 21 年度(約 1,000 万円、研究分担者)
2. "情報通信技術を活用した産業振興に係る調査研究委託業務", 坂井雄介,角田均, 上谷彊輔, 東青県民局, 2,000 千円(2010 年度)
3. "3 次元地理情報システムによる自然学習の高度化", 角田均, 公益財団法人日本教育公務員弘済会青森支部, 20 千円(2013 年度)

[その他の活動]

[公開講座、講演、セミナー]

1. "地域情報プラットフォーム「デジタル青森」の開発と応用", ブロードバンド活用による地域活性化シンポジウム(2010 年 3 月 17 日, 青森国際ホテル)
2. "ネットワーク社会で安全に暮らす知恵", 山田高校修養会(十和田おいらせ荘) (2011/8/30)
3. "セカイをつなげる情報技術", 三沢商業高校講演会(2011/8/31)
4. "人間とコンピュータの未来", 商業部会高大連携事業による講演会, 黒石商業高校(2012/9/3), 青森商業高校(2012/10/2)
5. "3 次元地理情報システム「デジタル青森」とその周辺", 角田均, 青森大学学術研究会秋季教員研究発表会(青森大学)(2012/12/05)
6. "ネットワーク社会で「安全」に暮らす知恵", 出張講義, 弘前第五中学校 (2013/01/08)
7. "社会を支える情報技術", 商業部会高大連携事業による講演会, 青森商業高校 (2013/07/17)
8. "小学生による水辺のすこやかさ指標を用いた尾駁沼の水環境評価と地理情報システムの活用について", 大沢凌平,小久保温,角田均,三上一,他, 平成 26 年度日本水環境学会東北支部セミナー(宮城県仙台市宮城野区文化センター)(2014/12/10)
9. "尾駁沼の秘密を探る", 松山勉,大沢凌平,角田均,小久保温,三上一, 平成 26 年度上北地方小学校教育研究会生活科・総合部会冬季研修会 (2015/01/07)

[学内各種委員]

1. 教務委員会(2010 年 - 2015 年)
2. 情報・IT 委員会(2010 年 - 2015 年、副委員長)
3. FD 委員会(2013 年 - 2015 年、副委員長)

[学外各種委員]

1. 芸術科学会東北支部 幹事

氏名 堀端 孝俊 (HORIBATA Takatoshi)

所属 ソフトウェア情報学部ソフトウェア情報学科

職名 教授

生年月日 1949 年 9 月 16 日

[履歴]

[学歴]

1974 年 3 月 東京理科大学卒業

1980 年 3 月 東京都立大学理学研究科博士課程 (物理学専攻) 単位取得満期退学

[学位]

理学博士

[職歴]

1982 年 8 月 東京大学原子核研究所研究員

1983 年 7 月 チュービンゲン大学研究員

1985 年 10 月 日本ユニシス株式会社

1991 年 10 月 青森大学工学部開設準備室嘱託

1992 年 4 月 青森大学工学部助教授(情報システム工学科)

1992 年 4 月 理化学研究所共同研究員(兼任)

2004 年 4 月 青森大学ソフトウェア情報学部教授

[所属学会]

日本物理学会会員

情報処理学会正会員

[教育活動]

[担当科目]

解析学 I 1 学年 (必修)

解析学 II 1 学年 (選択)

基礎ゼミナール A 1 学年 (必修)

基礎ゼミナール B 1 学年 (必修)

ソフトウェア情報学概論 1 学年 (共同担当、必修)

デジタル回路 1 学年 (必修)

人工知能 3 学年 (選択)

数学科教育法 III 3 学年 (選択)

創作ゼミナール I, II 3 学年 (必修)

卒業研究 4 学年 (必修)

[卒業研究指導]

2006 年 : 1 名 8 パズルプログラムの改良

2007 年 : 2 名 8 パズル GUI プログラムの改良、反復深化 A*アルゴリズムによる
15 パズル評価関数の性能評価

2008 年 : 2 名 反復深化 A*アルゴリズムの評価関数の改良

2009 年 : 1 名 15 パズルのパターンデータベースにおけるハッシュテーブルの利用

2013 年 : 1 名 順列得点法の 15 パズルへの適用

2014 年 : 2 名 15 パズルにおけるFRINGEパターン、24 パズルにおける順列得点

[ゼミ指導]

1. 基礎ゼミナールにおいて解析学の授業の予習・復習を実施しており、授業に関心を示す学生が増えている。

[教育指導に関する特記事項]

1, 「8パズル探索過程の可視化ツールの開発」

本学において、長年「人工知能」の講義を担当している。講義の目標は、状態空間の記述とその探索手法の理解にあり、特に、知識にもとづく効率的探索アルゴリズムの修得が主要な到達目標である。最近8パズルを使った講義の有効性について考えている。とくに最良優先探索や、A*アルゴリズムなどの探索法を学ぶには、きわめてわかりやすい題材である。今までは、この推論の仕組みをコンピュータプログラムの流れで説明してきたが、プログラミングが苦手な学生にとっては、このあたりがつまずきの原因になっていたように思える。そこで、ソフトウェアの動作を視覚に訴えることで、理解が深まらないかと考え教育改善に着手した。8パズルの探索過程を視覚化するツールを卒業研究で開発したが、このツールにより駒の動きの規則性に気がつき、結果として新しい評価関数を見つけることができた。教育の成果は研究論文として公表した(学術論文(2))

2, ここ数年、推薦で入学予定の生徒を対象に数学基礎力の入学前教育を担当している。答案をできるだけ丁寧に添削し、スムーズな大学教育への移行の実現に努めている。

[研究活動]

[研究テーマ]

(1) n2

-1 パズル評価関数の性能評価

(2) 原子核回転運動の記述

[著書、論文、総説]

著書

1. 湯田春雄,堀端孝俊 共著「しっかり学べる基礎デジタル回路」森北出版,2006年2月初版発行,2014年1月第5刷発行,A5版208頁.

学術論文

1. Y.Hashimoto and T.Horibata, Stability of s-band states in the tilting calculation of 182Os, Physical Review C74 (2006) 017301(4-pages).

2. 堀端孝俊,坂井雄介,8パズル盤面の距離情報と新評価関数 -マンハッタン距離を科学する-,コンピュータ教育学会誌「コンピュータ&エデュケーション」Vol.21 (2006)78-83.

3. T. Horibata, Y.Sakai and O.Yamamoto, Efficient Cost Functions for Solving the 8-puzzle with the A* Algorithm based on the Statistics of Distribution of Tiles, Information Vol.10 (2007) 123-130.

4. Y.Hashimoto and T.Horibata, Wobbling motions in 182Os expected through the generator coordinate method based on the three-dimensional cranked HFB, Information Vol.10 (2007) 199-207.

5. Y.Hashimoto and T.Horibata, Tilted axis rotation and t-band in 182Os with the three-dimensional cranked Hartree-Fock-Bogoliubov method, European Physics Journal A 42 (2009) 571-575.

6. Y.Hashimoto and T.Horibata, A description of t-band in 182Os within the fully microscopic calculation, Information Vol.13 (2010) 569-575.

7. Y.Hashimoto and T.Horibata, A description of t-band in 182Os with generator coordinate method, Information Vol.17 (2014) 429-434.

国際会議 Proceedings

1. T. Horibata, Y.Sakai and O.Yamamoto, A New Cost Function for Solving the 8-puzzle with the A* Algorithm, Proceedings of the Fourth International Conference on Information and the Fourth Irish Conference on the Mathematical Foundations of Computer Science and Information Technology (Information-MFCSIT'06), Ireland Cork (2006) 122-125.
 2. Y.Hashimoto and T. Horibata, Possible excitations of the wobbling motion in 182Os based on the three-dimensional cranked HFB, Proceedings of the Fourth International Conference on Information and the Fourth Irish Conference on the Mathematical Foundations of Computer Science and Information Technology (Information-MFCSIT'06), Ireland Cork (2006) 118-121.
 3. Y.Hashimoto and T. Horibata, Possible mechanism of the t-band based on the fully microscopic calculation, Proceedings of the Fifth International Conference on Information, Kyoto (2009) 87-90.
 4. Y.Hashimoto and T. Horibata, Quantum mechanical effects in tilted axis rotation in 182Os, Proceedings of the JCNP2009, Tsukuba (2010).
 5. Y.Hashimoto and T. Horibata, Study of t-band in 182Os with cranked three-dimensional Hortree-Fock-Bogoliubov method, Proceedings of the Sixth International Conference on Information, Tokyo (2013) 484-487.
- 研究報告書
1. Y.Hashimoto and T. Horibata, Study of nuclear Structure Change in Framework of 3D-CHFB+GCM, RIKEN Accelerator Progress Report 39 (2006) 30.
 2. Y.Hashimoto and T. Horibata, Tilted-axis rotation and wobbling motion on 3D-CHFB states, RIKEN Accelerator Progress Report 40 (2007) 56.
 3. Y.Hashimoto and T. Horibata, GCM description of rotational motions in 182Os, RIKEN Accelerator Progress Report 41 (2008) 42.
 4. Y.Hashimoto and T. Horibata, t-band and tilted axis rotation in 182Os, RIKEN Accelerator Progress Report 42 (2009) 55.
 5. Y.Hashimoto and T. Horibata, Investigation of t-band in 182Os by GCM, RIKEN Accelerator Progress Report 43 (2010) 57.
 6. Y.Hashimoto and T. Horibata, GCM amplitude in t-band for 182Os, RIKEN Accelerator Progress Report 44 (2011) 45.
- 講演 (国際会議講演、ポスター発表など)
1. "Stability of g- and s-bands in 182Os in three-dimensional cranked HFB"(共著者発表), Methods of many-body systems: mean field theories and beyond, RIKEN, March 2006.
 2. "A New Cost Function for Solving the 8-puzzle with the A* Algorithm"(Oral presentation), The Fourth International Conference on Information and the Fourth Irish Conference on the Mathematical Foundations of Computer Science and Information

Technology (Information-MFCSIT'06), Ireland Cork, August 2006.

3. "Possible excitations of the wobbling motion in 182Os based on the three-dimensional cranked HFB"(共著者発表), The Fourth International Conference on Information and the Fourth Irish Conference on the Mathematical Foundations of Computer Science and Information Technology (Information-MFCSIT'06), Ireland Cork,

August 2006.

4. "Tilted axis rotation and wobbling motion in the framework of three-dimensional cranked HFB" (Poster presentation). The 23rd International Nuclear Physics Conference (INPC2007), Tokyo, June 3-8, 2007.

5. 「8 パズル盤面の距離情報と新評価関数」 青森大学学術研究会春期教員発表会, 青森, July 2007.

6. "GCM description of rotational motions in 182Os" (Poster presentation). The Nuclear structure 2008(NS2008), Michigan, June 3-6, 2008.

7. "Tilted axis rotation and t-band in 182Os with the three-dimensional cranked Hartree-Fock-Bogoliubov method" (Poster presentation). The Fifth International Conference on Exotic Nuclei and Atomic Masses(ENAM'2008), Ryn, Poland, September 7-14, 2008.

学内報告書

1. 堀端孝俊, 山本修身, 坂井雄介 盤面の数理, 青森大学研究紀要第 29 巻第 2 号 (2006)39-51.

2. 堀端孝俊、木村容秀、山本修身 反復深化 A*アルゴリズムによる 15 パズルにおける新評価関数の性能評価, 青森大学研究紀要第 30 巻第 3 号(2008)63-78.

[学会発表]

1. GCM による 182Os の TAR モードの計算 日本物理学会 2007 年 9 月 北海道大学

2. 182Os における傾斜角回転に対応するバンド状態 日本物理学会 2008 年 3 月 近畿大学

3. 182Os における傾斜角回転状態の一粒子構造 日本物理学会 2008 年 9 月 山形大学

4. 182Os における TAR 状態と t-バンド 日本物理学会 2009 年 3 月 立教大学

5. HFB+GCM による 182Os の t-バンドの構造 日本物理学会 2010 年 3 月 岡山大学

[その他の活動]

2006 年 論文査読委員 : FIZIKA A & B (Zagreb CROATIA)

[学内各種委員] (ここ数年を担当した委員)

全学教務委員会委員

入試選抜委員会委員

入試作題委員会委員

公務員受験対策講座委員会委員

留学生支援委員会委員

教員評価制度委員会委員

学生募集連絡会議委員

[学外各種委員]

2006 年以降 学術誌 Information Editorial Board 編集委員(2004 年就任)

2006 年 国際会議"Information-MFCSIT'06" 組織委員

2009 年 国際会議"Information07" 組織委員

2008 年以降 県立青森工業高等学校 学校評議員

2009 年以降 弘前大学非常勤講師

2009 年以降 青森市立高等看護学員非常勤講師

氏名 緑川 章一 (MIDORIKAWA Shoichi)

所属 ソフトウェア情報学部ソフトウェア情報学科

職名 教授

生年月日 1951 年 5 月 15 日

[履歴]

[学歴]

1974 年 3 月 東北大学理学部物理学第 2 学科卒業

1979 年 3 月 東北大学大学院理学研究科原子核理学専攻修了

[学位]

理学博士

[職歴]

1979 年 4 月 東京大学原子核研究所教務補佐員

1980 年 4 月 日本学術振興会奨励研究員

1981 年 4 月 京都大学基礎物理学研究所教務補佐員

1983 年 4 月 京都大学基礎物理学研究所非常勤講師

1986 年 4 月 明治大学兼任講師

1989 年 4 月 北里大学非常勤講師

1994 年 4 月 青森大学工学部助教授

2007 年 4 月 青森大学ソフトウェア情報学部教授

[所属学会]

日本物理学会、米国物理学会、情報処理学会、IEEE Computer Society

[教育活動]

[担当科目]

確率・統計、CG 基礎数学、情報数学、数学科教育法Ⅱ、
プログラミングワークショップⅠ、プログラミングワークショップⅡ、
ソフトウェア情報学概論、創作ゼミナールⅠ、創作ゼミナールⅡ

[卒業研究指導]

2005 年卒業研究： 5 名

2006 年卒業研究： 3 名

2007 年卒業研究： 2 名

2008 年卒業研究： 4 名

2009 年卒業研究： 2 名

2010 年卒業研究： 1 名

2011 年卒業研究： 4 名

2012 年卒業研究： 3 名

2013 年卒業研究： 1 名

2014 年卒業研究： 3 名

[ゼミ指導]

2006 年 基礎ゼミⅢ： 10 名

2007 年 基礎ゼミⅢ： 10 名

創作ゼミナール：

2008 年創作ゼミナール： 2 名

2009 年創作ゼミナール： 1 名

2010 年創作ゼミナール： 4 名

2011 年創作ゼミナール： 3 名
2012 年創作ゼミナール： 1 名
2013 年創作ゼミナール： 3 名
2014 年創作ゼミナール： 3 名

[教育指導に関する特記事項]

- 1, CG-Arts 検定試験支援のため、補講を行っている。
- 2, 青森の文化遺産のデジタル化のために、三内丸山遺跡、弘前城、八甲田丸、斜陽館、盛美園、長勝寺、瑞樂園の現地調査を行い、その結果を公開している。
- 3, 留学生の指導・管理についての調査・研究のため、東京都私学行政課を訪問し、指導・管理の実際についての有益な情報を得た。

[研究活動]

[研究テーマ]

- (1) 素粒子物理学
- (2) コンピュータグラフィックス

[著書、論文、総説]

- 1, Sanuki, T, Honda, M, Kajita, T, Kasahara, K, Midorikawa, S, Study of cosmic ray interaction model based on atmospheric muons for the neutrino flux calculation, Phys.Rev.D75:043005-1 - 043005-17(2007)
- 2, Honda, M, Kajita, T, Kasahara, K, Midorikawa, S, Sanuki, T, Calculation of atmospheric neutrino flux using the interaction model calibrated with atmospheric muon data, Phys.Rev.D75:043006-1 - 043006-26(2007)
3. Honda, M, Kajita, T, Kasahara, K, Midorikawa, S, Improvement of low energy atmospheric neutrino flux calculation using the JAM nuclear interaction model Phys.Rev. D83 123001(2011)
4. Sajjad Athar, M, Honda, M, Kajita T, Kasahara, K, Midorikawa, S, Atmospheric neutrino flux at INO, South Pole and Pyhäsalmi Phys.Lett. B718 (2013) 1375-1380
5. Honda, M, Sajjad Athar, M, Kajita, T, Kasahara, K, Midorikawa, S Atmospheric neutrino flux calculation using the NRLMSISE00 atmospheric model. arXiv:1502.03916 (2015).

[学会発表]

- 1, 坂井雄介, 上谷彊輔, 緑川章一, 角田 均, 小久保温, 石田 努, 石澤美智代, 佐藤篤史, 産学連携による実践的ソフトウェア開発教育の取組み、情報処理学会東北支部研究会 2008 年 1 月、岩手大学

[その他の活動]

東京大学宇宙線研究所共同研究員
理化学研究所客員研究員
平成 19 年あおもり OSS 中核人材育成事業

[学内各種委員]

留学生支援委員会、
自己点検評価委員会、
セクシャル・ハラスメント防止対策委員会、
中国人留学生に関する総合的検討委員会委員、

中国人留学生の指導・教育向上のための「留学生手帳」「留学生台帳」検討・作成委員会

図書委員会(2010 年度～2012 年度)

入試管理委員会(2011 年度～)

入試選抜委員会(2011 年度～)

自己点検評価委員会(2013 年度～2014 年度)

[学外各種委員]

大学コンソーシアム青森研究連携部会委員 (2008 年度～2009 年度)

氏名 李 孝烈 (LEE, Hyor Yol)

所属 ソフトウェア情報学部ソフトウェア情報学科

職名 教授、就職部長

生年月日 1952 年 3 月 21 日

[履歴]

[学歴]

1976 年 3 月 東京都立大学理学部物理学科卒業

1982 年 3 月 東京都立大学理学研究科物理学専攻博士課程修了

[学位]

理学博士 1982 年 東京都立大学

[職歴]

1985 年 4 月 東京工業大学一般教育教務補佐員

1990 年 4 月 学習院大学理学部物理学科助手

1992 年 4 月 筑波研究学園専門学校

1996 年 4 月 青森大学工学部情報システム工学科助教授

2004 年 4 月 青森大学ソフトウェア情報学部ソフトウェア情報学科助教授

2007 年 4 月 青森大学ソフトウェア情報学部ソフトウェア情報学科教授

2012 年 4 月 青森大学就職部長

[所属学会]

日本オペレーションズリサーチ学会

情報処理学会

日本物理学会

[教育活動]

[担当科目]

オペレーションズリサーチ、キャリアデザイン II、
幾何学、物理学 II、コンピュータシミュレーション、
ソフトウェア情報学特講 I および II、創作ゼミナール I および II
インターンシップ

[卒業研究指導]

2011 年度卒業研究：1 名

2012 年度卒業研究：2 名

2013 年度卒業研究：2 名

[ゼミ指導]

2011 年度創作ゼミナール：2 名

2012 年度創作ゼミナール：2 名

2013 年度創作ゼミナール：1 名

[教育指導に関する特記事項]

1. 就職委員会を主宰して、就職課との協力のもと、学生の就職支援を進めた。ゼミ担当教員との連携による 4 年生に対する個別面談、3 年生向け就職ガイダンスの実施、年間 2 回の企業セミナーなど、重点的に実施した。
2. 青森大学基礎スタンダードの一環として、学生が自らの生き方や働くことの意義について考える講義「キャリアデザイン」の内容を担当者全員と協力して構成し、実施した。
3. 情報処理国家試験（基本情報技術者試験）合格支援のための「ソフトウェア

情報学特講」を担当して、全体の構成およびスケジュールを作成した。さらに補講を行い、毎年合格者を出した。

[研究活動]

[研究テーマ]

- (1) オペレーションズリサーチ、組合せ最適化
- (2) ネットワーク上の確率モデルに関する研究

[紀要、各種報告書]

1. 李 孝烈、グラフ上のランダムウォーク、青森大学研究紀要第 31 巻第 2 号 (2008 年 11 月) 79-92.
2. 李 孝烈 (共著)、ウェブ検索における重要度計算、青森大学研究紀要第 32 巻第 3 号 (2010 年 2 月) 75-108.

[その他の活動]

[公開講座、講演、セミナー]

1. 李 孝烈、グラフ上のランダムウォーク、青森大学ソフトウェア情報学科、学科セミナー (2008 年 6 月)
2. 李 孝烈、ウェブ検索における重要度計算の数理について、青森大学教員免許状更新講習 (2009 年 7 月)

[学内各種委員]

20012-13 年度：就職委員、学科資格取得対策委員、学科創作ゼミナール担当委員

氏名 ケチャスン ワード (KETCHESON Ward)

所属 ソフトウェア情報学部ソフトウェア情報学科

職名 准教授

生年月日 1954 年 1 月 4 日

[履歴]

[学歴]

May 1979 Graduated: University of Winnipeg, Bachelor of Arts

May 1984 Graduated: College-Universitaire de St.Boniface, Bachelor of Education

[学位]

Bachelor of Arts (English)

Bachelor of Education (French)

[職歴]

1984-86 French teaching for Portage la Prairie School Division and Winnipeg School Board.

1986-87 French teaching in the French Immersion program at O'Kelly School in Shilo, Manitoba

1987-88 English and French teaching for the Vancouver School Board.

1988-96 French teaching in the French Immersion program at Ecole Brackendale Secondary

School in Brackendale, B.C.

1997-98 Taught conversational English at James Language School in Aomori City.

1998-99 Taught English at Yamada High School and Aomori University

1999- English and French teaching at Aomori University. (講師)

2007 Aomori University: Associate Professor (准教授)

[所属学会]

東北英文学会、Japan Association of Language Teachers (J.A.L.T.)

[教育活動]

[担当科目]

英語 I,II (経営学科、社会学科、ソフトウェア情報学科、薬学部)

英語 IV (薬学科)、英会話 A,B,I,II, フランス語 IA, IB

[教育指導に関する特記事項]

1 Collaborated on a Foreign Languages Team Teaching lecture with first year students as part of

Aomori University's Standards Program. Theme was "Cross Cultural Customs".

2 Students came to do "make up" tests.

3 Tutored students on spoken English, Eiken and TOEIC tests.

4 Tutored students on French studies.

5 Made French IA,IB students aware and offered assistance for the French Proficiency Test 2013.

5 In 2002-2007, worked as an invigilator on the (仏検) French Proficiency Test.

[研究活動]

[研究テーマ]

(1) Japan's Modernization or Westernization in the Meiji era.

(2) Was Japan's Militarization of the 1930s Inevitable?

[著書、論文、総説]

1, Ketcheson, Ward: Quick Training for the TOEIC TEST, Cengage Learning, Dec. 2007

[その他の活動]

[公開講座、講演、セミナー]

1 About Canada, 2007年11月、青森市中央民センタ

[学内各種委員]

1 国際交流委員会

[学外各種委員]

1 青森市の Japan Blues Festival の委員(2006,2007)

氏名 ケチャスン ワード (KETCHESON Ward)

所属 ソフトウェア情報学部ソフトウェア情報学科

職名 准教授

生年月日 1954 年 1 月 4 日

[履歴]

[学歴]

May 1979 Graduated: University of Winnipeg, Bachelor of Arts

May 1984 Graduated: College-Universitaire de St.Boniface, Bachelor of Education

[学位]

Bachelor of Arts (English)

Bachelor of Education (French)

[職歴]

1984-86 French teaching for Portage la Prairie School Division and Winnipeg School Board.

1986-87 French teaching in the French Immersion program at O'Kelly School in Shilo, Manitoba

1987-88 English and French teaching for the Vancouver School Board.

1988-96 French teaching in the French Immersion program at Ecole Brackendale Secondary School in Brackendale, B.C.

1997-98 Taught conversational English at James Language School in Aomori City.

1998-99 Taught English at Yamada High School and Aomori University

1999- English and French teaching at Aomori University. (講師)

2007 Aomori University: Associate Professor (准教授)

[所属学会]

東北英文学会、Japan Association of Language Teachers (J.A.L.T.)

[教育活動]

[担当科目]

英語 I,II (経営学科、社会学科、ソフトウェア情報学科、薬学部)

英語 IV (薬学科)、英会話 A,B,I,II, フランス語 IA, IB

[教育指導に関する特記事項]

1 Collaborated on a Foreign Languages Team Teaching lecture with first year students as part of

Aomori University's Standards Program. Theme was "Cross Cultural Customs".

2 Students came to do "make up" tests.

3 Tutored students on spoken English, Eiken and TOEIC tests.

4 Tutored students on French studies.

5 Made French IA,IB students aware and offered assistance for the French Proficiency Test 2013.

5 In 2002-2007, worked as an invigilator on the (仏検) French Proficiency Test.

[研究活動]

[研究テーマ]

(1) Japan's Modernization or Westernization in the Meiji era.

(2) Was Japan's Militarization of the 1930s Inevitable?

[著書、論文、総説]

1, Ketcheson, Ward: Quick Training for the TOEIC TEST, Cengage Learning, Dec. 2007

[その他の活動]

[公開講座、講演、セミナー]

1 About Canada, 2007 年 11 月、青森市中央民センタ

[学内各種委員]

1 国際交流委員会

[学外各種委員]

1 青森市の Japan Blues Festival の委員(2006,2007)

氏名 小久保 温 (KOKUBO Atsushi)

所属 ソフトウェア情報学部 ソフトウェア情報学科

職種 准教授

生年月日 1968年2月22日

[履 歴]

【学 歴】

1990年3月 東京理科大学理学部第I部物理学科卒業

1992年3月 東北大学大学院理学研究科原子核理学専攻博士課程前期2年の課程修了

1996年3月 東北大学大学院理学研究科原子核理学専攻博士課程後期3年の課程修了

【学 位】

博士(理学)

【職 歴】

1996年1月 郵政省認可法人通信・放送機構国内招へい研究者として、東北大学 加齢医学研究所加齢脳・神経研究部門機能画像医学研究分野に勤務

1997年4月 青森大学工学部情報システム工学科助手

2004年4月 青森大学ソフトウェア情報学部ソフトウェア情報学科講師

2009年4月 青森大学ソフトウェア情報学部ソフトウェア情報学科准教授(現職)

[所属学会]

日本物理学会、情報処理学会

[教育活動]

【担当科目】

2015年度

情報リテラシー、プログラミング演習I・II、画像処理、コンピュータグラフィックス演習、Webデザイン、創作ゼミナールI・II、卒業研究、ソフトウェア情報学特講II・III、人間と文化

[卒業研究指導]

2015年度: 2人

【ゼミ指導】

2015年度

創作ゼミナールI: 2人

創作ゼミナールII: 2人

【教育指導に関する特記事項】

1. アクティブ・ラーニングへの取組

青森大学では2013年度から、アクティブ・ラーニングを積極的に取り入れた青森大学基礎スタンダードというカリキュラムをはじめた。2013年度から、青森大学基礎スタンダード科目の「人間と文化」を担当し、青森と情報技術に関するアイデアソン(アイデアをグループ・ディスカッションで創出する実習)を中心とした授業を展開している。

2. 地域連携による学生の就業意識の醸成とオープンデータ啓発活動

2013年度に青森県商工労働部新産業創造課により、新時代ITビジネス研究会が設立された。新時代ITビジネス研究会のIT人財定着部会に所属し、地域で情報技術を学んだ学生が地域で活躍できるように支援する活動を行なっている。また、オープンデータ活用検討部会に協力し、2月21日に開催された全世界イベントInternational Open Data Day 2015に青森から青森大学を会場に学生の運営で参加した。

[研究活動]

【研究テーマ】

2015 年度

- 1.WebGL / CSS3 による全天球パノラマ画像表示システム ThetaViewer
- 2.自然観察記録の Web 公開のための地図クラウド・プラットフォーム
- 3.自己管理のためのゲーミフィケーション・クラウド・プラットフォーム
- 4.PC、携帯、スマートフォン、タブレット端末に対応した Web 社会調査システム
- 5.地域コミュニティ活性化のためのタスクと地域通貨の交換プラットフォーム
- 6.海外をターゲットとした日本の商品の Web マーケティング
- 7.オープンデータの活用

【研究資金等】

2014 年度

- 1.小久保温、吉村治正(奈良大学)、渡部諭(秋田県立大学)、電気通信普及財団「インターネット社会調査と多様化する情報端末～スマートフォン、タブレット端末時代の社会調査に向けて～」、2013、2014 年度各年 60 万円ずつ
- 2.石橋修(八戸学院大学)、柏谷至、佐々木てる、田中志子、小久保温、坂井雄介、平成 25～27 年度科学研究費補助金基盤研究(C)「電子エコマネーを活用したボランティア・コーディネート支援ツールの開発」、期間全体の直接経費 380 万円
- 3.青森大学、青森県平成 26 年度「インターナショナル・オープン・データ・デイ運営」業務、60、000 円
- 4.澁谷泰秀、渡部諭(秋田県立大学)、吉村治正(奈良大学)、小久保温、平成 26 年度大川情報通信基金研究助成「CASM を応用した WEB 社会調査における PC、タブレット、スマホ、携帯電話を用いた反応の相違に関する研究」、100 万円
- 5.小久保温、澁谷泰秀、渡部諭(秋田県立大学)、吉村治正(奈良大学)、平成 26～28 年度科学研究費補助金基盤研究(C)「郵送調査と Web 調査のハイブリッド調査から完全 Web 調査への移行に関する研究」、期間全体の直接経費 360 万円

【著書、論文、総説】

2014 年度

- 1.日本脱カルト協会(JSCPR)編(小久保温共著)、『カルトからの脱会と回復のための手引き《改訂版》』、遠見書房、2014 年 11 月 5 日
- 1.小久保温、「全天球パノラマ画像ビューアーの開発」、青森大学研究紀要 第 37 巻第 3 号 pp.71-78、2015 年 2 月 1 日
- 2.小久保温、角田均、伊藤匠、織田将史、三上絢佳、今北斗、柏谷至、工藤雅世、坂田令(株式会社リンクステーション)、「学生のセルフ・マネジメントのためのゲーミフィケーション・プラットフォーム AOCa の設計と実装」、青森大学付属総合研究所 紀要 第 16 巻 2 号、2015 年 3 月 31 日

【学会発表】

2014 年度

- 1.澁谷泰秀、渡部諭(秋田県立大学)、吉村治正(奈良大学)、小久保温、「項目のワーディングが尺度に及ぼす影響: 項目反応理論と古典的テスト理論を用いた社会調査データの分析」、日本テスト学会 第 12 回大会、2014 年 8 月 31 日、帝京大学
- 2.大沢凌平、小久保温、角田均、「小学生向け環境学習用クラウドアプリの開発」、第 2 回日本水環境学会東北支部研究発表会、2015 年 1 月 10 日、東北工業大学
- 3.大沢凌平、三上一((元)青森県環境管理事務所)、小久保温、角田均、「環境学習用 Web アプリの開発と小学生による尾駁沼環境調査のマッピング」、第 49 回日本水環境学会年会、2015 年 3 月 16 日、金沢大学

4.三上一((元)青森県境管理事務所)、角田均、小久保温、大沢凌平、「小学生による水環境健全性指標を用いた尾駸沼の環境調査について」、第49回日本水環境学会年会、2015年3月17日、金沢大学

5.小久保温、澁谷泰秀、柏谷至、渡部諭(秋田県立大学)、吉村治正(奈良大学)、3F-01「ウェブ社会調査におけるデバイスによる反応の相違に関する研究」、情報処理学会 第77回全国大会、2015年3月18日、京都大学

6.小久保温、角田均、伊藤匠、織田将史、三上絢佳、今北斗、柏谷至、工藤雅世、坂田令(株式会社リンクステーション)、3F-05「学生のセルフ・マネジメントのためのゲーミフィケーション・アプリケーションの開発」、情報処理学会 第77回全国大会、2015年3月18日、京都大学

7.小久保温、角田均、伊藤匠、織田将史、三上絢佳、今北斗、柏谷至、工藤雅世、坂田令(株式会社リンクステーション)、「学生の自己管理のためのゲーミフィケーションの取り組み」、平成26年度 第4回芸術科学会東北支部研究会、2015年3月28日、日本大学工学部
[公開講座、講演、セミナー]

2014年度

1.小久保温、パネル「オープンデータ活用検討部会活動報告」、オープンデータ活用推進フォーラム2015、2015年1月13日

2.青森大学、株式会社リンクステーション、「セルフ・マネジメントのためのゲーミフィケーション・アプリケーション」、平成27年度青森ITビジネス・マッチング交流会、2015年2月13日

[学内各種委員]

2015年度

総合研究所学際情報研究班班員

FD委員

入試選抜委員

学生募集委員

情報・IT委員

[学外各種委員]

2015年度

青森県オープンデータ検討委員会 委員長

青い森地域創造基金 評議員

氏名 坂井 雄介 (SAKAI Yuusuke)

所属 ソフトウェア情報学部ソフトウェア情報学科

職名 准教授

生年月日 1968 年 3 月 13 日

[履歴]

[学歴]

1990 年 3 月 東京農工大学工学部数理情報工学科卒業

1992 年 3 月 東京農工大学大学院工学研究科電子情報工学専攻修了

1994 年 3 月 東京農工大学大学院工学研究科電子情報工学専攻中途退学

[学位]

工学修士

[職歴]

1994 年 4 月 青森大学工学部情報システム工学科助手

2002 年 4 月 青森大学工学部情報システム工学科講師

2004 年 4 月 青森大学ソフトウェア情報学部ソフトウェア情報学科講師

2009 年 4 月 青森大学ソフトウェア情報学部ソフトウェア情報学科准教授

[所属学会]

情報処理学会、日本工学教育協会

[教育活動]

[担当科目]

地域貢献基礎演習、地域貢献演習、プログラミングワークショップ I・II、コンピュータアーキテクチャ、オペレーティングシステム、ソフトウェア設計、創作ゼミナール I・II、卒業研究

[卒業研究指導]

2011 年度卒業研究： 4 名

2012 年度卒業研究： 1 名

2013 年度卒業研究： 4 名

2014 年度卒業研究： 4 名

2015 年度卒業研究： 3 名

[ゼミ指導]

2011 年度創作ゼミナール： 1 名

2012 年度創作ゼミナール： 4 名

2013 年度創作ゼミナール： 3 名

2014 年度創作ゼミナール： 3 名

2015 年度創作ゼミナール： 3 名

[教育指導に関する特記事項]

特になし

[研究活動]

[研究テーマ]

(1) マンマシンインタフェース

[著書、論文、総説]

1. 上谷彊輔ほか：3次元地理情報システム「デジタル青森」の開発と応用、青森大学研究紀要 Vol.32, No.3

[学会発表]

1. 角田均ほか：3次元地図の高速表示システムの開発と応用、情報処理学会全国大会、2010年3月、東京大学

【研究費の取得状況】

1. 科学研究費助成事業「電子エコマネーを活用したボランティア・コーディネート支援ツールの開発」（研究分担者、平成25年度～平成27年度）

【その他の活動】

【学内各種委員】

1. 学習支援センター 運営委員・センター員（平成25年度9月～）
2. 自己点検評価・認証評価審査対策委員（平成27年度～）
3. 情報・IT委員（平成22年度～）

【学外各種委員】

無し

氏名 白岩 貢 (SHIRAIWA Mitsugu)

所属 ソフトウェア情報学部

職種 准教授

生年月日 1965年10月1日

[履 歴]

[学 歴]

1988年3月 玉川大学文学部芸術学科音楽専攻卒業

1989年3月 大東音楽アカデミーディプロマコース修了

1997年7月 ドイツ国立カールスルーエ音楽大学大学院修士課程歌曲解釈科修了

[学 位]

文学士(玉川大学) 芸術修士(カールスルーエ音楽大学)

[職 歴]

1989年 大東学園高等学校(東京都世田谷区) 教諭

1991年 大東学園専門学校専任講師

1994年 大東学園高等学校教諭

1999年 青森山田高等学校教諭 兼青森大学・青森短期大学非常勤講師

2003年 青森短期大学専任講師 兼青森大学非常勤講師

2009年 青森短期大学准教授

2012年 青森大学ソフトウェア情報学部准教授

[受 賞]

1992年 第5回国際芸術連盟新人オーディション奨励賞受賞

1996年 第1回 JIRA 音楽コンクール入選

1998年 第3回 JIRA 音楽コンクール第三位

2000年 1999年度国際芸術連盟音楽賞受賞

2001年 友愛ドイツ歌曲コンクール入選

[所属学会]

日本演奏連盟

[教育活動]

[担当科目]

芸術(音楽)、英語IA・IB・ドイツ語IA・IB・IIA・IIB、学問のすすめ

[教育指導に関する特記事項]

芸術においてはさまざまなジャンルの音楽に親しむことを目的として舞台芸術を中心に鑑賞教育と楽典の基礎、音楽史を中心に教育にあたる。

語学教育では学生の親しみやすいミュージカルや映画をテーマに、語彙力の強化、ヒアリング能力の向上に努める。また、ドイツ留学やアメリカ文化の修得をもとに異文化の紹介を中心として、外国語へのハードルを少なくするための講義を心掛けている。

[研究活動]

[研究テーマ]

ドイツリート of 演奏と紹介

親しみやすいコンサートの形式

舞台芸術(オペラ、ミュージカル)の演技と歌唱

[その他の活動](2009年以降)

2009年2月 ウィーン音楽の夕べ「歌と弦の響きにのせて」

- 白岩貢&高旗健次&長谷智子ジョイントコンサート（弘前文化センターホール）
- 2009年2月 リートデュオ研究演奏会「ドイツリートいろいろ」
（青森市男女共同参画プラザ AV 多機能ホール）
- 2009年3月 県病ふれあいコンサート「春を呼ぶフレンドリーコンサート」
（青森県立中央病院）
- 2009年5月 国際ソロプチミスト青森チャリティーコンサート「おしゃべりクラシックコンサート」
（青森市文化会館大ホール）
- 2009年7月 白岩貢&梅本実リートリサイタル「リヒャルト・シュトラウスを歌う」
（東京オペラシティリサイタルホール）
- 2009年9月 首都オペラ公演「マルタ」リッチモンドの判事役（神奈川県民ホール）
- 2009年10月 秋のチャリティーコンサート「名曲の散歩道」
（十和田市民文化センター）
- 2009年10月 アンサンブルの愉しみ「連弾と重唱のひとつとき」
（青森市国際交流ハウス）
- 2009年12月 リノスアンサンブル第10回記念演奏会ゲスト出演（青森市民ホール）
- 2010年2月 白岩貢&小木曾美津子リートリサイタル「冬の旅」（横浜市イギリス館）
- 2010年3月 県病ふれあいコンサート「抒情歌と愛唱歌の夕べ」（青森県立中央病院）
- 2010年2月 白岩貢&小木曾美津子リートリサイタル「冬の旅」
（青森市男女共同参画プラザ）
- 2010年7月 ミッド・オイローパ特別コンサート・ソリスト（オーストリア）
- 2010年8月 木造高校銀杏ヶ丘同窓会・ミニコンサート（つがる市松の館）
- 2010年11月 中馬昌代&相馬直子ジョイントコンサート・ゲスト出演
（弘前市藤田記念庭園）
- 2010年11月 サロンコンサート・イン・シュトラウス「ウィーンの名曲を集めて」
（青森市シュトラウス）
- 2010年12月 愉快的コンサート「世界と日本の名歌を集めて」
（十和田市民文化センター視聴覚ホール）
- 2010年12月 第10回国際文化交流の夕べ「白岩貢&秦江里奈ジョイントコンサート」
（島根県立大学）
- 2011年2月 白岩貢&小木曾美津子リートリサイタル「シューマンとヴォルフを歌う」（横浜市イギリス館）
- 2011年3月 吉田信子&白岩貢&小木曾美津子リートリサイタル
（青森市男女共同参画プラザ）
- 2011年5月 ぶらっとブラームス「気軽に愉しむピアノソロとアンサンブルのひとつ時」
（旧東京音楽学校奏楽堂）
- 2011年5月 県病ふれあいコンサート「海と愛を歌う」（青森県立中央病院）
- 2011年7月 リスト&マーラー記念の年に寄せて「畑山扶美子&白岩貢&小木曾美津子ジョイントコンサート」
（日暮里サニーホールコンサートサロン）
- 2011年7月 リスト&マーラー記念の年に寄せて「畑山扶美子&白岩貢&小木曾美津子ジョイントコンサート」
（青森公立大学国際交流ハウス）
- 2011年10月 愉快的コンサート「オペラとミュージカルの楽しみ」
（十和田市民文化センター）
- 2011年11月 ピアノソロと歌曲の愉しみ「白岩貢&相馬直子ジョイントコンサート」
（青森市シュトラウス）
- 2011年11月 2011音楽力8〜相馬直子ピアノリサイタル・ゲスト出演（下北文化会館）

- 2012年1月 2012 ニューイヤーコンサート「歌曲とオペラ～歌謡曲まで」
(青森市恵比須屋)
- 2012年3月 白岩貢&小木曾美津子リトリサイタル「美しき水車小屋の娘」
(青森市男女共同参画プラザ)
- 2012年3月 白岩貢&小木曾美津子リトリサイタル「美しき水車小屋の娘」
(横浜市イギリス館)
- 2012年4月 長島剛子&白岩貢&梅本実リトリサイタル「色とりどりのドイツリートを楽しむ」(青森公立大学国際交流ハウス)
- 2012年6月 2012 全国骨髄バンクボランティアの集い in 青森・ミニコンサート
(ホテル青森)
- 2012年9月 白岩貢名曲コンサート (弘前市喫茶れもん)
- 2012年11月 歌とピアノの音楽玉手箱 (青森市男女共同参画プラザ)
- 2013年2月 第8回歩いて楽しむ小春通り祭「白岩貢ミニコンサート」
(日本原燃サイクル情報センター)
- 2013年2月 歌で綴る名曲の旅「岡村喬生先生をお迎えして」(県民福祉プラザ)
- 2013年5月 ピアノソロとリートを愉しむ (青森公立大学国際交流ハウス)
- 2013年7月 歌で紡ぐ男と女の恋物語「ヴォルフ作曲イタリア歌曲集全曲演奏会」
(杉並公会堂小ホール、青森市男女共同参画プラザ AV 多機能ホール)
- 2013年7月 県病ふれあいコンサート2013 (青森県立中央病院)
- 2013年9月 首都オペラ公演「ハムレット」墓堀人I役 (神奈川県民ホール)
- 2013年9月 徐福来町2222周年津軽半島音楽祭 (中泊町・徐福の里)
- 2013年9月 歌い継ごう童謡・唱歌 in 青森2013 (ワ・ラッセ「西の広場」)
- 2013年10月 青森大学大学祭「白岩貢声楽リサイタル」(青森大学記念ホール)
- 2014年2月 東吾妻町婦人会第2回教養講座(群馬県東吾妻町コンベンションホール)
- 2014年3月 市民オペラ「夕鶴」運ず役 (青森市ブラックボックス)
- 2014年5月 ライオンズクラブ国際協会年次大会ミニ・コンサート(ホテル青森)
- 2014年6月 青森商工会議所女性会総会ミニ・コンサート(ホテル青森)
- 2014年8月 真夏の昼の夢～白岩貢と音楽仲間によるサロンコンサート(青森公立大学国際交流ハウス)
- 2014年8月 ギター伴奏による「美しき水車小屋の娘」全曲演奏会(青森公立大学国際交流ハウス)
- 2014年8月 特別養護老人ホーム「外ヶ浜荘」ボランティアコンサート(外ヶ浜荘)
- 2014年8月 第2回中泊徐福まつり～クラシックコンサート(中泊町徐福公園)
- 2014年10月 弘前オペラ第43回定期公演「メリー・ウィドウ」サン・ブリオッシュ役(弘前市民会館)
- 2015年1月 白岩貢&小木曾美津子リトリサイタル「白鳥の歌」全曲演奏会(アウガ5階AV多機能ホール)

【研究費の取得状況】

- 2009年2月 青森市文化芸術活動振興基金 100千円 (リートデュオ研究演奏会)
- 2011年7月 財団法人青森県国際交流協会助成事業 100千円 (ドイツと青森のハーモニーを楽しむ)

【公開講座、講演、セミナー】

- 2009年6月 「気軽に、気楽にコンサート！」(NHK文化センター青森教室)
- 2009年6月 青森大学オープンカレッジ市民大学「抒情歌を楽しむ」(春)

- 2009年8月 オペラを身近に！「ドン・ジョヴァンニの楽しみ方」（青森市文化会館）
- 2009年10月 青森大学オープンカレッジ市民大学「抒情歌を楽しむ」（秋）
- 2010年6月 啄木と越谷の世界「短歌と音楽の出会い」（NHK文化センター青森教室）
- 2010年6月 青森大学オープンカレッジ市民大学「抒情歌を楽しむ」（春）
- 2011年6月 白岩貢のオペラ（歌曲）の楽しみ方（NHK文化センター青森教室）
- 2010年10月 青森大学オープンカレッジ市民大学「抒情歌を楽しむ」（秋）
- 2011年6月 青森大学オープンカレッジ市民大学「抒情歌を楽しむ」（春）
- 2011年10月 青森大学オープンカレッジ市民大学「抒情歌を楽しむ」（秋）
- 2012年6月 青森大学オープンカレッジ市民大学「抒情歌を楽しむ」（春）
- 2012年6月 レクチャーコンサート「歌曲集〈詩人の恋〉とハイネ歌曲の世界」
（NHK文化センター青森教室）
- 2012年10月 青森大学オープンカレッジ市民大学「抒情歌を楽しむ」（秋）
- 2012年11月 大間町立大間小学校音楽教室（大間町立大間小学校）
- 2012年12月 朗読とともに楽しむ歌曲の世界「ヴォルフ・イタリア歌曲集」
（NHK文化センター青森教室）
- 2013年3月 レクチャーコンサート・イン・シュトラウス「モーツァルトのひととき」
（青森市シュトラウス）
- 2013年9月 青森大学オープンカレッジ市民大学「抒情歌を楽しむ」
- 2014年1月 レクチャーコンサート・イン・シュトラウス「シューベルトのひととき」
（青森市シュトラウス）
- 2014年10月 文学と音楽の出会い～北原白秋の歌の世界をたどって（弘前市喫茶れもん）
- 2014年10月 青森大学オープンカレッジ市民大学「抒情歌を楽しむ」
- 2014年11月 ミュージックパーティー～独唱、歌唱指導（埼玉県吉川市）

【学外各種委員】

- 2014年8月 在宅医療市民公開フォーラム実行委員（主催：青森市医師会）
- 2015年3月 雨上がりの空に希望の虹がある青い森リサイタル実行委員（共催：青森県女医会）

〔学内各種委員〕

学生委員会 ハラスメント防止対策委員会

職名 橋本 恭能 (HASHIMOTO takanori)

所属 ソフトウェア情報学部ソフトウェア情報学科

職名 准教授

生年月日 1970年11月8日(44歳)

【履歴】

【学歴】

1993年3月 弘前大学理学部物理学科 卒業

1995年3月 弘前大学大学院理学研究科物理学専攻 修了

【学位】

修士(理学) 1995年3月 弘前大学

【職歴】

1995年4月 青森大学工学部電子情報工学科 助手

2006年4月 青森大学ソフトウェア情報学部 講師

2012年4月 青森大学ソフトウェア情報学部 准教授(現職)

【教育指導に関する特記事項】

ETロボコン2014 東北地区大会(2014年9月20日)

・デベロッパー部門アドバンストクラス 総合準優勝

ETロボコン2014 チャンピオンシップ大会(2014年11月19日)

・デベロッパー部門アドバンストクラス 競技部門11位

【その他の活動】

第2回 高校生科学研究コンテスト (2014年11月15日) 実行委員

【所属学会】

情報処理学会

氏名 和島 茂 (WAJIMA Shigeru)

所属 ソフトウェア情報学部ソフトウェア情報学科

職名 准教授

生年月日 1970 年 6 月 30 日

[履歴]

[学歴]

1993 年 3 月 弘前大学理学部物理学科卒業

1995 年 3 月 弘前大学大学院理学研究科物理学専攻修了

[学位]

理学修士

[職歴]

1995 年 4 月 青森大学工学部電子情報工学科助手

2001 年 4 月 青森大学工学部電子システム工学科助手

2004 年 4 月 青森大学ソフトウェア情報学部ソフトウェア情報学科助手

2007 年 4 月 青森大学ソフトウェア情報学部ソフトウェア情報学科助教

2008 年 4 月 青森大学ソフトウェア情報学部ソフトウェア情報学科講師

2013 年 4 月 青森大学ソフトウェア情報学部ソフトウェア情報学科准教授

[所属学会]

日本情報処理学会

日本写真測量学会

[教育活動]

[担当科目]

ソフトウェア情報学概論(1 年前期)

プログラミングワークショップ I(2 年前期)

プログラミングワークショップ II(2 年後期)

3D-CAD 演習(3 年前期)

情報理論(3 年後期)

創作ゼミナール I(3 年前期)

創作ゼミナール II(3 年後期)

基礎演習(1 年前期)

卒業研究(4 年通年)

[卒業研究指導]

2006 年度卒業研究： 2 名

2007 年度卒業研究： 4 名

2008 年度卒業研究： 3 名

2009 年度卒業研究： 4 名

2010 年度卒業研究： 4 名

2011 年度卒業研究： 3 名

2012 年度卒業研究： 2 名

2013 年度卒業研究： 2 名

2014 年度卒業研究： 2 名

[ゼミ指導]

2007 年度創作ゼミナール： 2 名

- 2008 年度創作ゼミナール： 4 名
- 2009 年度創作ゼミナール： 3 名
- 2010 年度創作ゼミナール： 3 名
- 2011 年度創作ゼミナール： 2 名
- 2012 年度創作ゼミナール： 2 名
- 2013 年度創作ゼミナール： 2 名
- 2014 年度創作ゼミナール： 2 名

【教育指導に関する特記事項】

1. 復習、全体像の把握に資するため、可能な科目については講義資料を Web ページにアップロードしている。
2. 学期初めに採点基準を明示して、学内向けの Web ページ上で学生の成績を随時更新し、モチベーションの喚起を促している。
3. 3 年創作ゼミナール、4 年卒業研究の個別指導のため、学生 1 名あたり週最低 2 コマ分の時間を取っている。

【研究活動】

【研究テーマ】

- (1) 射影変換の応用による斜め写真の活用
- (2) 天体の運動のシミュレーションと高速表示

【著書、論文、総説】

1. 和島 茂, 「量子力学における一般相対論的效果」, 弘前大学大学院理学研究科物理学専攻修士論文 (1995)
2. Shigeru Wajima, Masumi Kasai, Toshifumi Futamase, 「Post-Newtonian effects of gravity on quantum interferometry」, *Physical Review D*. vol. 55. (1997) pp1964-1970
3. 和島 茂, 「Java Applet による立体パズルの再現とその解法」, 青森大学・青森短期大学学術研究会研究紀要、第 30 巻第 1 号(2007)1-53.
4. 上谷彊輔ほか, “3 次元地理情報システム「デジタル青森」の開発と応用”、青森大学研究紀要 Vol.32 No.3 (2009) pp61-73
5. 角田均、和島茂, 「斜め写真からの 3 次元テクスチャ生成の研究」, 日本リモートセンシング学会 第 51 回学術講演会論文集 pp.101-102, 2011 年(査読無)
6. 石田努、小久保温、坂井雄介、角田均、メネンデス・フランシスコ、和島茂、上谷彊輔, 「「デジタル青森」を活用した高校生セミナー —情報技術の魅力を喚起する試み—」, *CIEC 研究会論文誌*, vol.2, pp.105-111, 2011 年(査読有)
7. Menendez Francisco Javier、新谷敬、石田努、小久保温、坂井雄介、角田均、和島茂、上谷彊輔, 「大規模地形の高速表示と 3 次元 GIS の開発」, 第 10 回 NICOGRAPH 春季大会予稿集, DVD 媒体のためページ番号なし, 2011 年(査読有)
8. 角田均、和島茂, 「航空写真の簡易的なオルソ化と 3 次元地形テクスチャの生成」, 日本写真測量学会平成 24 年度年次学術講演会発表論文集 pp.133-136, 2012(査読無)
9. 和島茂、角田均, 「被写体の形状・模様を用いた航空写真のオルソ化」, 日本写真測量
10. "斜め写真の活用", 角田均,和島茂, 平成 25 年度第 2 回芸術科学会東北支部研究会研究論文(査読無)25-02-01(2013)
11. "斜め写真からの大規模構造抽出", 和島茂,角田均, 日本写真測量学会平成 25 年次学術講演会発表論文集(査読無)pp. 15-18(2013)
12. "斜め写真の大気効果の自動除去", 和島茂,角田均, 日本写真測量学会平成 26 年度年次学術講演会発表論文集(査読無)pp.1-4(2014)

学会平成 24 年度秋季学術講演会発表論文集 pp. 79-82, 2012(査読無)

[その他の活動]

[公開講座、講演、セミナー]

1. 和島 茂、「Java Applet 等による立体パズルの再現とその自動解法」、ソフトウェア情報学科セミナー、2007 年 5 月 23 日、青森大学
2. 和島 茂、「ルービックキューブのヒューリスティックな解法」、小規模研究集会「ヒューリスティックサーチと 15 パズル」日本教育公務員弘済会、教弘会館、2008 年 8 月 19 日
3. 上谷彊輔、角田均、小久保温、石田努、坂井雄介、和島茂、「青森をまるごとデジタル化ー「デジタル青森」プロジェクト」、大学コンソーシアム青森第 6 回ワイガヤ会、青森大学、2009 年 12 月 4 日

[学内各種委員]

- 2006 年度：図書委員、学術研究会委員
- 2007 年度：図書委員、IT 化検討会・作業部会委員、学術研究会委員
- 2008 年度：教務委員、IT 化検討会・作業部会委員
- 2009 年度：教務委員、将来計画委員、IT 化検討会・作業部会委員
- 2010 年度：教務委員、情報・IT 化委員
- 2011 年度：学生委員、情報・IT 化委員
- 2012 年度：学生委員、情報・IT 化委員
- 2013 年度：学生委員、情報・IT 化委員
- 2014 年度：学生委員、図書委員、情報・IT 化委員

氏名 紅林 亘 (KUREBAYASHI Wataru)
所属 ソフトウェア情報学部ソフトウェア情報学科
職種 助教

生年月日 1987年8月18日

[履歴]

[学歴]

2010年9月 埼玉大学工学部情報システム工学科卒業
2012年9月 埼玉大学大学院理工学研究科博士前期課程修了
2014年9月 東京工業大学大学院情報理工学研究科博士後期課程修了

[学位]

博士(工学) 2014年9月 東京工業大学

[職歴]

2014年4月 日本学術振興会特別研究員(DC2)
2014年9月 日本学術振興会特別研究員(PD)
2015年4月 青森大学ソフトウェア情報学部ソフトウェア情報学科助教

[受賞]

電子情報通信学会 学術奨励賞 (2015年3月)
電子情報通信学会 非線形問題研究会 発表奨励賞 (2014年12月)
国際会議 “2012 International Symposium on Nonlinear Theory and its Applications”
において Student Paper Award 受賞 (2012年10月)
埼玉大学学長表彰 (2009年1月)
SISIA ホームページコンテスト2008 大宮アルディージャ賞 (2009年1月)

[所属学会]

電子情報通信学会, 日本物理学会, 日本機械学会, 知能情報ファジィ学会

[教育活動]

[担当科目]

アルゴリズムとデータ構造 I, ソフトウェア情報学特講 I・III, 基礎演習,
プログラミング演習 I, 情報リテラシー, データベース, 創作ゼミナール I・II

[卒業研究指導]

なし

[ゼミ指導]

2015年度創作ゼミナール I・II: 2名

[研究活動]

[研究テーマ]

- (1) 非線形力学系の低次元化理論の拡張
- (2) 力学系理論に基づく時系列解析手法の確立

[著書、論文、総説]

1. W. Kurebayashi*, S. Shirasaka, and H. Nakao, "A criterion for timescale

decomposition of

external inputs for generalized phase reduction of limit-cycle oscillators” , Nonlinear Theory

and its Applications, IEICE 2, 171-180 (2015).

2. W. Kurebayashi*, T. Ishii, M. Hasegawa, and H. Nakao, "Design and control of noise-induced synchronization patterns” , Europhysics Letters (EPL) 107, 10009 (2014).

3. M. Kazama, W. Kurebayashi*, T. Tsuchida, Y. Minoshima, M. Hasegawa, K. Kimura,

and H. Nakao, "Enhancement of noise correlation for noise-induced synchronization of

limit-cycle oscillators by threshold filtering” , Nonlinear Theory and its Applications,

IEICE 5, 157-171 (2014).

4. W. Kurebayashi*, S. Shirasaka, and H. Nakao, "Phase Reduction Method for Strongly

Perturbed Limit Cycle Oscillators” , Physical Review Letters 111, 214101 (2013).

5. W. Kurebayashi*, K. Fujiwara, and T. Ikeguchi, "Colored noise induces synchronization

of limit cycle oscillators” , Europhysics Letters (EPL) 97, 50009 (2012).

但し, 著者名に付した * 印は corresponding author を表す.